

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	情報通信工学特別輪講第二		
英文授業科目名	Advanced Seminar in Information and Communication Engineering 2		
開講年度	2009年度	開講年次	
開講学期	通年	開講コース・課程	博士後期課程
授業の方法	演習	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-情報通信工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報通信工学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
西野 哲朗 田口 聡	なし

【主題および達成目標】
<p>技術者・研究者として活動していくためには、専門に特化した研究を遂行する能力を高める努力をするとともに、自らの専門分野の周辺の事情についても深い知識と洞察力を持つことが必要である。併せて自らの思考過程、研究結果を他者に正確に伝え、さらにこれらをより価値の高いものにするためには発表・討論の能力、問題発見と解決のセンスを身につける必要がある。</p> <p>このためには先ず、国内外の学会誌、論文誌、国際会議プロシーディング、専門書などから情報通信工学の分野での最新の話題や普遍的な学理を記述したものなど複数選び、これらを全員が熟読する。これをお互いに発表し合い理解度を高めるとともに、討論により本質を見抜くセンスを身に付ける。情報通信工学特別輪講第一よりさらに専門性が高い内容を取り扱う。</p> <p>輪講の実施最小単位は各研究室であるが、専攻内を4グループに分け、グループ間の連携も考慮しながら有機的な輪講運営を計り、より広い専門的視野を身につけるようにする。併せて、技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、良識ある多角的視野を持ち、技術と社会の関係をわきまえ、技術者・研究者としての基本的マナーを身に付ける。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

電気通信大学 平成21年度シラバス

【教科書等】

【参考書】情報通信工学に関する国内外の学会誌、論文誌に掲載された研究論文、国際会議プロシーディング、国内外専門書などを適宜用いる。

【授業内容とその進め方】

(a) 内容

国内外の学会誌、論文誌、国際会議プロシーディング、専門書などから情報通信工学の分野での最新の話題や普遍的な学理を記述したものなど複数選び、これらを全員が熟読する。これをお互いに発表して討論する。

(b) 進め方

輪講の実施の最小単位である各研究室において指導教員の直接の指導のもと進められる。また、より広い専門的視野を身につけるように、専攻内を4グループに分け、グループ間の連携を考慮した輪講も行う。

(c) 授業時間以外の学習

与えられた論文誌や専門書の内容をまとめて発表するために、事前に十分な時間をかけて内容を理解しておく必要がある。また、発表・討論の後には理解を深めた事柄を整理すること。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

発表や討論を通して、自らが担当したテーマに加えて他者のテーマの内容も深く理解する必要がある。具体的には、

- (1) 輪講中における教員からの試問に対して正しく答えられているか
- (2) 発表のためのまとめのレポートの内容が十分かどうか
- (3) 他者の発表に対する討論に貢献しているかどうか

【オフィスアワー：授業相談】

各指導教員が設定する。

【学生へのメッセージ】

今までは先人が築いた情報通信工学に関する学問を学んで来たわけであるが、今後は皆さんが情報通信工学の分野に1ページを書き加える番である。このためには技術のある程度幅をもちかつ奥深くとらえ、討論によってより高い価値を生み出すセンスと良識あるマナーを身に付けることが大切である。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【その他】

年度始めに指導教員と議論して策定した「研究指導計画書」を意識し、必要に応じて更新しつつ、進捗状況を自ら把握しながら研究を進めることを推奨する。